

結ぶ

神楽とは、人と人、地域と地域を結ぶ、神々がくれた「絆」

全国から18の神が集い「夢の競演」を

古来から受け継がれる全国各地の特色ある神楽が、本町に一堂に会し、競演します。今回、国民文化祭しずおか「神楽フェスティバル」を開催するにあたり、18もの有名な神楽団体が趣旨に賛同し、集ってくれることになりました。これほど多数の神楽が競演する催しというのは、なかなかお目にかかれないのではないかと思います。

国指定重要無形民俗文化財に指定されている5団体をはじめ、全18団体とも、それぞれ地域の特色を色濃く受け継ぐ、由緒ある神楽ばかり。また、ご当地まで行かず全国各地の神楽を見られる絶好の機会でもあります。



INTERVIEW
生涯学習課
国民文化祭しずおか2009
神楽フェスティバル担当
かずなり
大村一成さん

委員会を設置し、検討を重ねたもてなしの形

本町では、平成19年10月に

町内有識者の皆さんなどで構成する実行委員会を立ち上げました。それから約2年間にわたり、6回の委員会を開催。神楽フェス開催に向けて検討を重ねています。また、実施計画の立案などを協議する企画委員会を平成19年12月に設立し、8回の委員会を。平成20年11月には、もてなしの方法などを検討する歓迎委員会を設立、5回の委員会を開催し、検討を重ねています。

神楽を活かしたまちづくりに向けて

今回全国各地から、神楽を活用した地域づくりや観光振興を進めている団体が出演します。今後、本町ならではの「神楽を活用したまちづくり」を創出するためにも、大きな参考になると思います。先進地団体の神楽を活かした取り組みを学び、本町でも、地域づくりへの道すじを考えていく大きなチャンスになると考えています。

これだけ多くの神楽が集う機会は、そうはありません。神々の世界を、ぜひ肌で感じてください



またボランティアは町民の皆さんから募集しますから、県内外から訪れる人たちと交流するきっかけづくりにもなるのではないのでしょうか。もてなしや交流を通して、出演者や来訪者の満足度を高め、神楽同士の親交を深める一助に、また、町の活性化にもつなげていけたらと思っています。

地域を越えて結びつく神楽の世界を体感

神楽のほかにも、赤石太鼓の演奏や中川根南部小の和楽器演奏などが、神楽フェスを盛り上げます。また会場内では、町内団体の皆さんが出店するバザーも併設。おいしい魅力も盛りだくさんです。地域の、町の垣根を越えて、人と人とを結び付ける神楽フェスティバル。ぜひ大勢の人に会場へ足を運んでいただき、そんな神々の世界を、人々の力を、肌で感じてもらえたいと思います。



神々へ、感謝を捧げる「神楽」。と同時に、人々が生きる喜びを分かち合う場でもありました。人と人とを結び付けてきた神楽は今、地域と地域をも結び付けようとしています。

●会場のご案内

- ①本川根小学校特設会場 10月25日 午後1時～3時
10月26日 午前9時～午後6時
 - ②田代大井神社特設会場 10月25日 午後3時30分～夜10時
- 各会場住所 ①川根本町千頭1236-6 ②川根本町田代432

●神楽シンポジウムのご案内

八木洋行氏をコーディネーターに迎え、神楽シンポジウムを開きます。愛知県東栄町からは、花狂いという熱狂的なファンを持つことで知られる花祭りの伊藤勝文氏、第18回の国民文化祭やまがた「番楽神楽フェスティバル」を開催した山形県遊佐町からは杉沢比山連中野寺幸七氏がシンポジウムに参加。「神楽は土地の光となりえるのか？」と題して語り合います。貴重な話が聞ける機会です。

10月25日 午後1時30分～3時 本川根小特設会場
日本民俗学会会員 八木洋行氏
愛知県東栄町花祭会館館長 伊藤勝文氏
山形県遊佐町杉沢比山連中代表 小野寺幸七氏
梅津神楽保存会会長 筑地宣氏

神楽フェスティバルに関する問い合わせ
第24回国民文化祭川根本町実行委員会事務局
川根本町教育委員会 生涯学習課 ☎(58)7080 ㊟(59)4025

●シャトルバスのご案内

開催期間の25、26日は、無料シャトルバスが各地を巡回します。駐車場の利用と併せてご利用ください。

10月25日	午前11時～午後10時30分 (巡回)	J A大井川本川根支店横→音戯の郷→あゆの里下→本川根小正門→田代町営バス停留所→本川根中正門→崎平集会所 (本中正門は25日のみ)
10月26日	午前8時～午後6時30分 (巡回)	

●駐車場のご案内

- 第1駐車場 あゆの里下河川敷臨時駐車場
 - 第2駐車場 J A大井川農協本川根支店横駐車場
 - 第3駐車場 中部電力大井川電力センターヘリポート臨時駐車場
 - 第4駐車場 本川根中学校駐車場
 - 第5駐車場 ケーブルテクニカ駐車場
- すべての駐車場にシャトルバスが停車します。第4、第5駐車場については25日のみ利用できます。

●大井川鐵道を利用される皆さんへ

大井川鐵道を利用して神楽フェスティバルに来場される人には、帰りの無料乗車券(助成券)を会場で発券します。なお、25日には、千頭駅午後10時30分発金谷行き臨時電車を無料運行します。くわしくは事務局までお問い合わせください。

●取材を終えて

神楽は、地域コミュニティの原点になっていた。今回の特集を通して、改めて考えさせられたことです。練習を取材した9月の田代神楽保存会。そこには、伝統復活に向けて集い、練習を重ねる、あらゆる年代の人がいました。年配の人が、若い世代や子どもたちに、伝統の技を教え伝える姿に、大きな感動を覚えました。

神楽は、舞台上の舞い手だけで創り上げるわけではありません。その舞台を飾り付ける人、衣装を揃える人、笛を吹く人、太鼓を叩く人、かけ声をかける人、舞い手に飲み物を運ぶ人…。

来場者だってその一部だと思います。そんな多くの人の力が結び付いて、あの華やかな舞台は成り立っているのです。

古くから、大切に受け継がれてきた地域の宝「神楽」。このほど開かれる神楽フェスティバルは、本町と同じように神楽を大切に継承してきた全国各地の神楽団体同士が一堂に会し、本町を舞台に結び付きます。

「神楽の聖地」へ。

神楽を通して、人と人、地域と地域とが結び付いたとき、そこに大きな力が生まれます。この町が、神楽を生かしたまちづくりへの一歩を踏み出す、大きな転機になるかもしれません。

参考:するが神楽調査報告書(駿河神楽連絡協議会)、徳山神楽調査報告書(中川根町古典芸能保存会)、本川根町神楽調査報告書「本川根町田代・坂京・青部の神楽」(本川根町教育委員会)、榛北地域文化データベース